

2025 年度 訪問看護質向上委員会 活動報告

■委員	田川由香、小枝美由紀、黒岩美奈子 信川千賀子 片山操子 村上欣延、岩崎美智子
■開催回数	12 回
■活動目標	1. 訪問看護部会ならびに各委員会・ブロック会で課題とされた訪問看護の質向上の内容を精査・検討する。 2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、訪問看護ステーションで必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する。
■活動内容	1. 訪問看護部会で課題とされた内容ならびに各訪問看護事業所から兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項を精査・検討する。 1) 課題とされた内容の理由や根拠を明確にし、内容について精査・検討する。 2) 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの質問事項については管理者育成委員会と共同で回答作業を行う。 3) 課題がない場合は、委員会内で検討課題を話し合い看護部会へ提示・提案する。 4) 精査した検討すべき内容は優先順位を決定し、取り組む内容を絞り込む。 2. 訪問看護ステーションの標準化を目指し、質の高い訪問看護を提供できるよう、訪問看護ステーションで必要なスキル等の基本的な情報の作成を実施し、ステーションの質の担保を統一する。 1) 作成にあたり、現状把握及び課題について分析し、地域の訪問看護ステーションが活用できる内容とする 2) 兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会のブロック会で必要な情報を得る 3) 専門的な知識や情報についての助言をオブザーバーとして CNS、CN、有職者等の参加を依頼し、専門家の協力を得る 4) 完成時は、他の委員会と連携し普及を目的とした広報活動を実施する 5) 作成後の活用状況の把握等の客観的評価を行い、今後の普及活動に活かす 6) 作成した内容は、最新情報を参考にしながら定期的に追加修正を図る ・訪問看護部会と委員内より、痰吸引は ALS 等の成人難病患者だけでなく特別支援学級や放課後デイ等の小児も含まれるケースが増えてきている現状、ヘルパー痰吸引研修自体実施をしていない事業所や地域差がある可能性、ヘルパー痰吸引研修終了後の定期的なフォローアップがきちんとされていないのではないか、今後フォローアップ体制を確立していくことが必要ではないか、等のヘルパーの痰吸引研修終了後の課題があった。検討案を元に「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題」として 2024 年度に会員向けのアンケート調査実施し「フォローアップの研修に時間の都合で参加できない」が最も多く、研修終了後のフォローアップを実施しているのは 10 件 (20.4%) と少数であった結果より、研修終了後のフォローアップ体制を確立していく必要性が考えられた。兵庫県では 2024 年度で訪問看護フォローアップ研修が終了となったことから、今後のフォローアップの向上を目指す目的で研修を企画した。県助成のもと 10 月 4 日 (土) 13:30-16:00 に研修「痰吸引研修後の継続的な連携のためにできること」を実施した。研修対象は、訪問看護事業所の痰吸引指導者の看護職ならびに痰の吸引研修終

	了後の介護職、関係希望者とした。講師として小枝美由紀氏(神戸女子大学看護学部 講師/在宅看護専門看護師)より「兵庫県内の訪問看護ステーションにおける研修終了後のフォローアップの実態や介護職員における痰吸引の研修制度の現状」、杉本和子氏(兵庫県介護福祉士会副会長)より「訪問介護事業所と訪問看護ステーションとの円滑な連携に向けて」講義、訪問看護質向上委員会より「継続的なフォローアップ啓発の場面イラスト紹介」とし「緊急対応体制」「安全委員会の開催」「介護職員等の手技等の確認①②」「ちょっとした普段の相談対応」と5つの事例を紙芝居風に紹介、グループワークで意見交換をおこなった。 アンケート結果として、研修参加人数は15名(看護師12名、介護職3名)、内容は「よく役に立つ」11名、「少し役に立つ」4名であった。意見として「実態を知ることができた」「定期的な研修フォローアップ(必須)」「指導看護師へのフォローアップがあるとうれしい」「疑問等を投げかけるところが、どこにあるのか分からない」「よい連携の事例があれば教えてほしい」等聞かれた。 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへの相談・質問事項の回答依頼は、今年度はなかった。
■活動の評価	「介護職員の痰吸引研修終了後の課題及び、訪問看護師によるフォローアップの現状と課題に関する調査」結果より、今年度は研修企画を実施することができた。今後は、研修結果を分析した内容を継続的なフォローアップをどのように現場に浸透させていったら良いのか考えていくことが看護の質向上につながると考える。 兵庫県看護協会訪問看護総合支援センターへ届く質問・相談事項への回答作業はなかったが、エビデンスに基づいて参考になる最新の文献情報を委員内で収集、意見交換し今後も情報発信していく。
■今後の課題	研修後アンケート調査結果をふまえ、今後どのようにつなげていったら良いか検討していく必要がある。